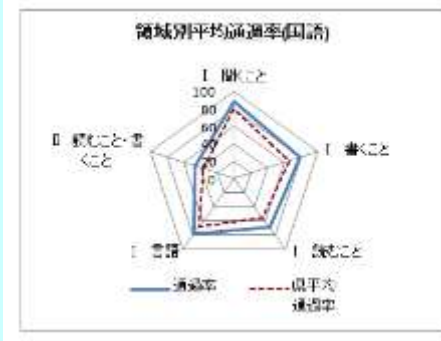
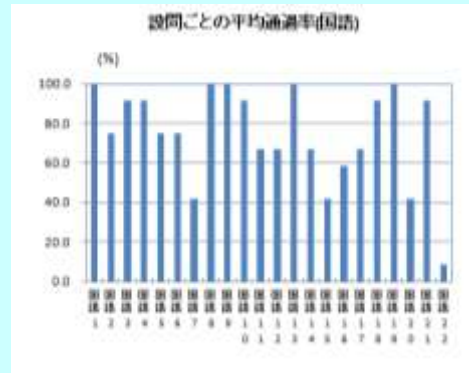


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 74.6%, 県 63.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

タイプⅠは78.0%、タイプⅡは53.2%の通過率となっている。県平均と比べると、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられる。タイプⅠの「聞くこと」(88.9%)、「書くこと」(79.2%)については通過率が高い。一方で、タイプⅡでは、47.2%と通過率が低い。

○昨年度の課題への取組の成果

昨年度は、タイプⅠ「書くこと」とタイプⅡにおいて、課題が見られた。文のつながりを意識させ、接続詞を適切に用いることができるように、国語科の授業や作文指導等を工夫して取組を行った。その結果、「書くこと」のおける通過率は向上した。

重点課題

【課題1】

タイプⅡ「書くこと読むこと」において、「情報の取り出し・理由や事例を挙げた記述」(国語2 2)に課題がある。題意を正確にとらえ、論理的に理由を述べるための情報を取り出すことができていない。(通過率 8.3%)

【課題2】

タイプⅠ「読むこと」において、「中心となる語や文の把握」(国語1 5)に課題がある。5文字の書き出しができていない(回答類型3)の児童が33%であった。(通過率 41.7%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

文章と図表やグラフなどを関連付けて自分の考えをまとめる学習活動を行い、文章の内容や図表・グラフが何の情報を表しているのか、どの言葉や数字に着目すればよいのかを判断する必要があることを理解させる。また、国語科だけでなく、社会科や理科などでも、図表やグラフから、「何を示しているか」、「どんなことが分かるか」、「考えの根拠にできるのはどの部分か」という視点で読み取ること習慣付ける。

【課題2】

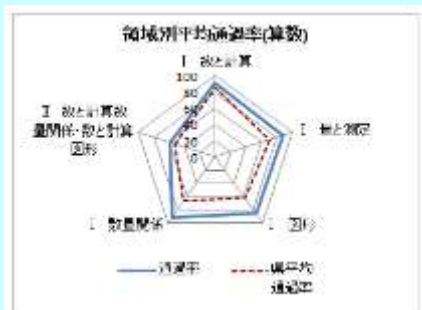
筆者の考えの中心となる語や文を見つけるには、説明文や意見文において、何度も述べられる語を見つけたら、「つまり」等の接続詞につながる文や語を見つけたりすることが重要であることを理解させる。また、長文全体を読んで、自分の言葉でまとめる活動を仕組み、キーワードを見つける必然性をもたせる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年 小テスト	H28「基礎・基本」		H28「基礎・基本」	H27「全国学力」
目標値			80%	80%		75%	80%
実施後数値			85%	77%			

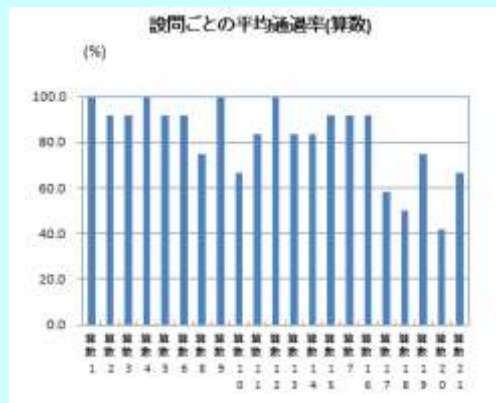
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年 小テスト	H28「基礎・基本」		H28「基礎・基本」	H27「全国学力」
目標値			80%	80%		75%	80%
実施後数値			77%	84%			

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校82.1%, 県69.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
タイプⅠは 89.6%、タイプⅡは 58.3%の通過率となっている。県平均と比べると、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられる。タイプⅠの「数と計算」(91.7%)、「数量関係」(91.3%)については通過率が高い。一方で、タイプⅡでは、論理的に記述する問題に課題がある。
- 昨年度の課題への取組の成果
昨年度はタイプⅡ（「与えられた条件に合わせて筋道を立てて表す」）において通過点が低かったが、考えの根拠を箇条書きで表しながら、筋道を立てて考えることを指導し、記述面で向上が見られた。

重点課題

【課題1】

タイプⅡ「数と計算 図形」において、「平行四辺形の性質の利用」(算数20)に課題がある。平行四辺形の定義ととらえ、④を選択した児童が 41.7%。(通過率 41.7%)

【課題2】

タイプⅡ「折れ線グラフと棒グラフの関連付け」(算数18)に課題がある。比較すべき月の記述や棒グラフから読み取ったことの記述がない児童が 41.7%であった。(通過率 50%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

図形の定義を学習するだけでなく、それぞれの図形のもつその他の性質についても説明する活動を仕組む。また、題意を正しく捉えるために、問題文に下線を引いたり、簡単に言い換えたりできるように指導を行う。

【課題2】

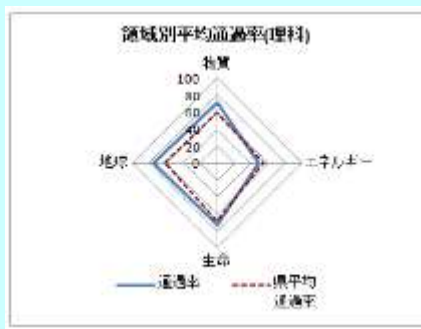
折れ線グラフと棒グラフのそれぞれの性質・読み取ることのできる情報の違いについて理解の定着を図る。様々なグラフを算数科だけでなく、他教科でも取扱い、グラフから読み取れることから自分の考えを表す等の活動を仕組むことで、各グラフの性質について体験的に学ぶことができるようにする。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年 小テスト	H28「基礎・基本」		H28「基礎・基本」	H27「全国学力」
目標値			80%	80%		75%	80%
実施後数値			69%	92%			

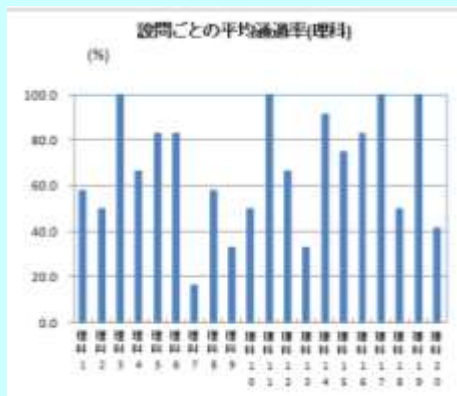
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年 小テスト	H28「基礎・基本」		H28「基礎・基本」	H27「全国学力」
目標値			80%	80%		75%	80%
実施後数値			77%	85%			

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校67.1%, 県60.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
タイプⅠは71.8%、タイプⅡは58.3%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な学習内容は、概ね定着していると考えられる。「物質」の領域は、71.7%、「生命」の領域は、72.9%、「地球」の領域は、75%であるが、「エネルギー」の領域は、48.3%で、通過率が他の領域と比べて低い。
- 昨年度の課題への取組の成果と課題
昨年度は、「方位磁針の正しい使い方を身に付けること」の通過率は、36.4%であった。観察の際、実際に、方位磁針による方位の確認を行い、方位磁針の正しい使い方を身に付けさせることで、通過率が100%になった。

重点課題

【課題1】

タイプ2「エネルギー」において、「物質の磁石に反応したりしなかったり、電気を通したり通さなかったりする性質を複合的に考えることができる」(理科7)の通過率が、16.7%であった。2つの性質を複合的に考えることに課題がある。

【課題2】

タイプⅠ「エネルギー」において、「並列つなぎの回路のつなぎ方について理解すること」(理科9)の通過率は、33.3%であった。並列つなぎと直列つなぎの回路のつなぎ方が十分理解できていない。無解答が、8.3%であった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

物質の磁石に反応したりしなかったり、電気を通したり通さなかったりする性質を、それぞれ実験から整理するとともに、2つの性質を複合的に整理する。また、磁石の性質を活用したものづくり、電気の性質を活用したものづくりを行うことで、より理解を深める。

【課題2】

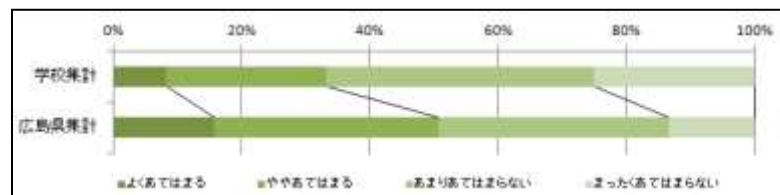
「直列つなぎ」と「並列つなぎ」の実験を丁寧に行うとともに、「直列つなぎ」「並列つなぎ」という言葉や電気用図記号(回路図記号)を使って考察したり、説明したりできるようにする。また、乾電池の向きを変えるとモーターが逆に回ることから、電流の向きについても、簡易検流計を用いて、実際に調べる活動を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年 小テスト	H28「基礎・基本」		H28「基礎・基本」	H27「全国学力」
目標値			80%	80%		75%	80%
実施後数値			80%	85%			

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年 小テスト	H28「基礎・基本」		H28「基礎・基本」	H27「全国学力」
目標値			80%	80%		75%	80%
実施後数値			80%	85%			

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

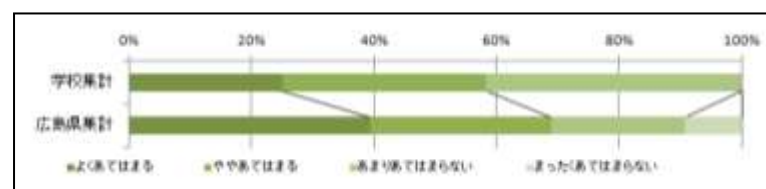
(1) 生活・学習



児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。」(33.3%)	<ul style="list-style-type: none"> 学習場面を身近な問題に関連付けることで、主体的に調べたいような課題を設定する。 情報収集の過程が課題を解決するために重要であったかを振り返らせることでその意義を感じさせる。 	5	80%	アンケート調査	12月	85%	52%

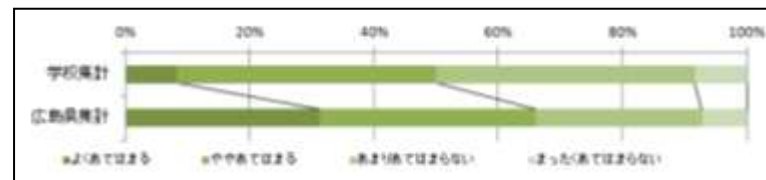
(2) 教科

国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。」(58.3%)	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を用いて意味調べを行う学習を行ったり、家庭学習で新出漢字などについて辞書で調べる学習を取り入れたりして、使用する機会を増やす。 	5	80%	アンケート調査	12月	100%	42%
算数の授業では、自分のとき方や考え方の説明をノートに書いています。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの根拠をノートに記述するなどして明確にしてからペア活動や全体で発表する段階を設ける。 	5	80%	アンケート調査	12月	77%	27%
理科の授業では、観察や実験を行うときは、その目的は何かを意識しています。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返りやまとめの場面で、「学習したことが生活場面でどのように活用できるか」という視点を設けて、振り返りをさせる。 	5	90%	アンケート調査	12月	85%	10%

算数の授業では、自分のとき方や考え方の説明をノートに書いています。



理科の授業では、観察や実験を行うときは、その目的は何かを意識しています。

